

桜川文芸

俳句

【大和俳句愛好会】

葉ざくらや黄昏長く客を待つ

鈴木 木ふみい

読み書きは吾れの試練や新樹光

田中 はつひ

床の間に鑑かぶとの初端午

古橋 益子

雨だれのひかりを集め柿若葉

鈴木 木つぎ

らちもなき夫との会話春炬燵

代田 とし

児が帰る朝の食事春菜づけ

成田 あさ

四温晴喜楽に老の小畑かな

皆川 和子

ふと亡母の笑顔がうかぶ初夏の風

鈴木 登美子

水音や足元までも夏深し

田代 てい子

かあさんの一味ちがう芹御飯

安達 幸子

抽きん出る麦の穂天に揃いけり

岩淵 のぶ子

短歌

【花の室 木崎集】

さ迷ひて夕暮れ見たる停車場に銀河行き
発車の合図が鳴りぬ

塚田 沙玲

赤い羽根胸につけられ少年のはにかみ晒
す駅前広場

野村 幸男

紅をさし鏡に向いにつこりとほほえむ柝

葉傘寿の日課

西岡 和子

繋がりたる赤き糸が切れやうと見へざる

糸は黄泉の果まで

深谷 快子

いくたびも地名変れど水音は変わらぬまま

に世は移りゆく

鈴木 とみ

ひと呼吸して唐鍬を振りかざし雁字搦め

の木の根にいとむ

中島 龍子

葉桜の緑濃くなり風立ちて人知れず散る

蕊のくれなる

塩谷 明子

【岩瀬短歌会】

雨止みて谷の瀬音の高鳴りに時をり混じ

る野の鳥のこゑ

小林 むら

鰯雲ひろぐる下に涙とも汗とも吾息の新

墓洗ふ

五月女 静江

躓きて蹴とばす小石に薄氷のバリツと割

れて春の音する

渡辺 しな子

枝打ちを八十路の今もと地下足袋を履き

し翁の朗らかなる顔

大久保 富美江

人は何処に住みをるらんか蕎麦畑に延々
のびる猪除けトタン

古賀 澄

亡き母の口遊みたるを偲ぶなり懐メロの

歌力チューシャの唄

瀧井 幸子

蝸牛コロコロ鳴くと聞きてより雨の六月

楽しみに待つ

広沢 日出子

さりげなき話題交して今生の友であらむ

と受話器を置きぬ

鈴木 美津子

吉事のある年迎へんと姿見を磨くに皺む

魔法のをりたり

小林 美瑛子

【岩瀬秋歌会】

娘を送り話したりぬと庭に居り梢も遅れ

いる月影おぼろ

安達 すみ子

紫の色えんびつを選びたりカタクリ画く

雨の一日

大関 節子

亡き夫の愛でにし一本梅の花紅・白・桃

色思ひのままに

角田 玉枝

黄に盛る庭の山茱萸に追憶の老友等と踊

りし稗搦節を

坪井 ゆき子

病みてより八十路の坂は厳しかり初夏の

風さそふつつじの里へ

長谷川 玲子

花桃の今しひらかん様見えぬふくらみ持

ちて春陽に向かふ

石川 喜代

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ